## 4　検証結果

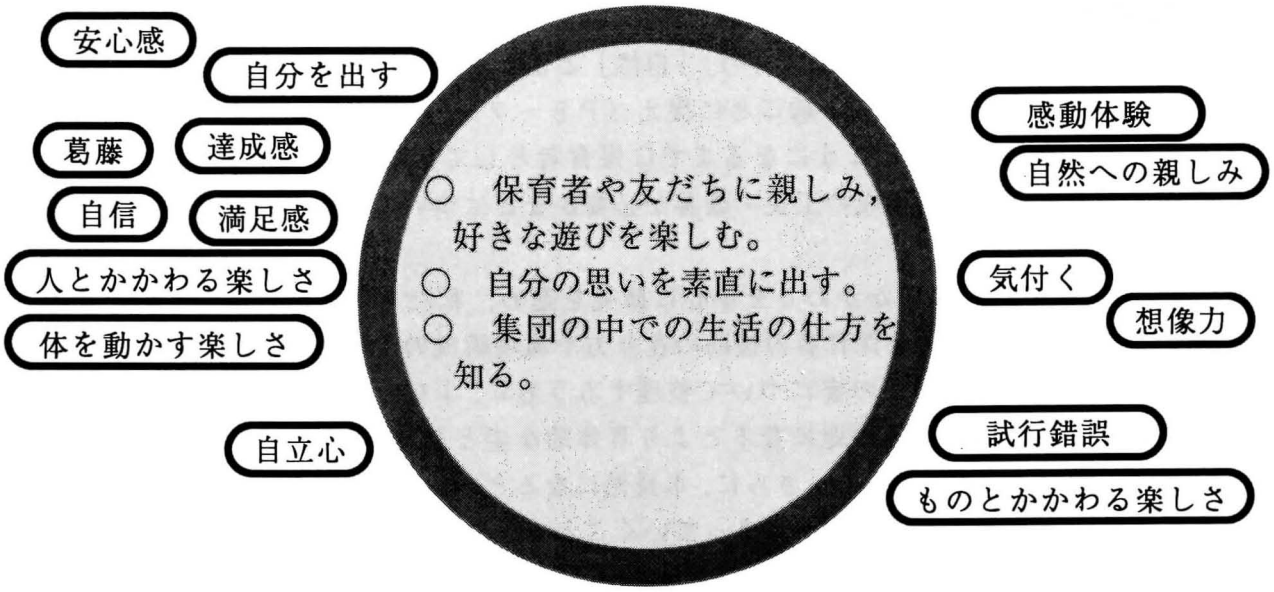
私たちは子どもたちが「人」「もの」「自然」とかかわる姿，かかわりによって育まれる体験，目指す姿について年齢ごとに捉え（Ｐ５～７），研究を進めてきた。子どもが自分らしさを発揮できるようになるまでに保育者としてどのように援助していけばよいか，どのような環境構成の工夫・改善が必要かなどについて実践を通して検証してきた。

今年度，「もの」とのかかわりを中心に研究を進め，私たちは初めに捉えていた年齢の姿を整理し，具体的な保育者の援助の在り方や環境構成の工夫・改善について追究してきた。例えば，各年齢の姿について整理するうちに，「もの」とのかかわりがスタートする年少児の姿が，年中児になるとより具体的な姿となり，「もの」とのかかわりが広がっていくことが分かった。さらに，年長児になると，年中児のかかわりの広がりが，それぞれの遊びの充実により，深まっていくことも整理することができた。

このようなことを踏まえ，次のページからは，以下の視点で検証結果をまとめてみた。

○　「もの」とのかかわりの中で見られた子どもたちの姿
○　自分らしさを発揮するための保育者の援助の在り方
○　自分らしさを発揮するための環境構成の工夫・改善

○ 「もの」とのかかわりの中で見られた年少児の姿




〔もの〕

○ 様々な「もの」と出合う。
○ 様々な「もの」の使い方を知る。

○ 空き箱や空き容器，ソフト積み木等を並べたり，重ねたりするなどして組み合わせる。
○ 空き箱や空き容器，平テープ等を使って自分のつくりたいものをつくる。
○ 魔法の杖や剣など自分のつくったものを使って遊ぶ。

○ 砂や土を皿に盛って料理をつくる。
○ 砂や土に水を混ぜて料理をつくる。
○ 川や海に見立てて友だちと場を共有しながら遊ぶ。

○ 音楽に合わせて体を動かす。
○ タンブリンやすず等を鳴らして，リズム遊びをする。

○ ぶらんこやすべり台，グローブジャングル等固定遊具を使って遊ぶ。
○ 水鉄砲や的当て，魚釣り，ボディーペインティング等水遊びをする。
○ 鉄棒にぶら下がったり，前回りをしたりして遊ぶ。
○ マットに転がったり，マット上で相撲をしたりする。
○ 跳び箱に乗ったり，跳び箱から跳び降りたり，またぎ乗り・またぎ降りをしたりする。
○ ボールを的に当てたり，転がしたりする。
○ ボールを投げたり，蹴ったり，捕ったりする。

○ 自分の所持品の始末の仕方を知り，自分でしようとする。
○ みんなで使う「もの」を大切に使う。
○ 順番やきまりを守ったり，後片付けを自分でしようとしたりする。

## ○　年少児が自分らしさを発揮するための保育者の援助の在り方

### 例　「もの」そのもののよさに気付けるような言葉掛けをする。

初めての園生活を楽しむ年少児，見るもの，聞くもの，嗅ぐもの，触れるもの，味わうもの等，何もかもが新鮮で，目をきらきらと輝かせながら感動を体や言葉で表現します。「先生見て！噴水みたいでしょう！」「空まで届くかなあ」と，空高く水鉄砲を跳ばしたり，「『雨降りくまの子』しよう」と，ペットボトルシャワーで水浴びをしたり，「こうしたらね，白がなくなったの！」と，赤と白の花紙を入れたペットボトルを振って見せたり，保育者に伝えたいことはいっぱいです。「うわあ，噴水みたい。きらきらしてきれいだねえ」「雨降りのお水は，冷たくって気持ちがいいねえ」「へええ，こうして振ったら，白がなくなったんだ。どこにいったのかなあ」と子どもたちの気付きに共感しながら，水の心地よさ，水と混ざり合う花紙の面白さ等を意識した言葉掛けも大切にしたいです。

先生，『雨降りくまの子』して！

はい，どうぞ！ピュ～！

きゃ～！気持ちいい！！

冷たくって，気持ちがいいねえ。

今度は，カエルさんになる！

## ○　年少児が自分らしさを発揮するための環境構成の工夫・改善

### 例１　「もの」との出合わせ方を工夫する。

自分の好きな遊びを見付けて遊ぶ年少児，「○○くんみたいなのつくりたい」「○○ちゃんみたいにしたい」「先生，『これ』ちょうだい。うみ組さんがこれ入れてたの！」と，自分がしたいことを保育者に話す姿が多く見られます。同じ場を共有している同じクラスの友だちはもちろん，年中児や年長児が遊んでいる姿から刺激をたくさん受けているのでしょう。子どもの実態を把握しながら，空き箱，空き容器，ロールペーパー芯，牛乳パック，ペットボトルなどの形や大きさなどに私たち保育者がこだわって，提供する順序や数を工夫していくことで，子どもたちが味わう感動も一層大きなものとなると考えます。

セロハンテープの扱い方に，大分慣れてきたぞ！
そろそろガムテープを要する大きさの箱を準備しよう！

先生，できない！
ぼく，ロボットつくりたいの。

じゃあ，これガムテープって言うんだけど，これ使ってみようか。

あ，くっついた！ぎゅってなった！

### 例２　友だちとのかかわりが生まれるような環境構成に努める。

初めての集団生活，幼稚園には魅力的な「もの」がたくさんあります。

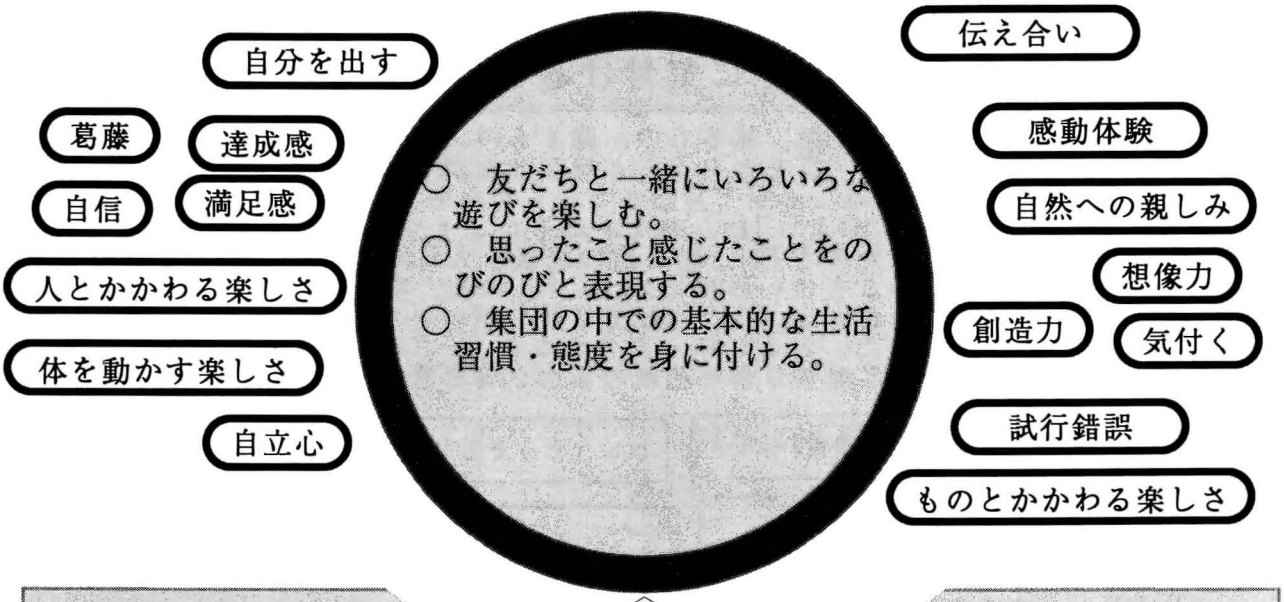
様々な「もの」とかかわりながら，自分のしたいことを楽しむ中で，遊具や場の取り合い，自分の思い通りにしようとすることなどから，押す，ものを投げるといった行動をとることがあるでしょう。成長していく過程の中でこれはとても大切な経験です。「貸して」「替わって」「ありがとう」などの言葉を知ったり，状況によっては，待つ，我慢することを覚えたりすることにもつながります。

環境構成の工夫として，子どもの‘～したい’という思いを実現していくことはもちろん，友だちとのかかわりが生まれるようにしていくことも大切にしたいです。

自分のしたい遊びを進める中で，思い通りにならないことを経験し，友だちにも思いがあることに気付いたり，年少児なりに自分の気持ちに折り合いをつけたりすることも育んでいきたい力の一つです。

ボールの数を減らすと，「貸して」「ありがとう」といった友だちとのやりとりが生まれるはず！数を減らしてみよう！

○　「もの」とのかかわりの中で見られた年中児の姿




〔もの〕

○　様々な「もの」と出合う。
○　様々な「もの」の使い方を知る。

○　空き箱などを使って遊ぶ。
○　空き箱やロールペーパー芯，ペットボトルなどの様々な素材を組み合わせて自分のつくりたいものをつくる。
○　自分でつくったものと友だちのつくったものを合体させて遊ぶ。
○　ダンボールを使って家や電車，お店などをつくる。
○　色紙や新聞紙，広告紙を使って遊ぶ。
○　粘土で自分のつくりたいものをつくる。
○　折り紙でいろいろなものをつくる。
○　絵の具で絵を描いたり，絵の具や花紙で色水をつくる。
○　自分でつくったものを使ってままごとをしたり，テレビの登場人物になりきったりして遊ぶ。
○　自分たちでつくったものを使ったり，役を決めたりしてごっこ遊びをする。
○　簡単な役割分担をしながら，ケーキ屋さんやレストランなどのごっこ遊びをする。

○　積み木を積んだり，並べたりする。
○　友だちと話をしながら，積み木を使って家や基地など大きなものをつくって遊ぶ。

○　砂や土，水を使ってチョコレートやカレーなどいろいろなものをつくる。
○　砂場で山をつくったり，川をつくって水を流したりして遊ぶ。

○　好きな曲に合わせて楽器を鳴らしたり，体を動かしたりする。
○　タンブリンや鈴，ピアノなど身近な楽器を使って自分の感じたことを表現する。

○　ぶらんこ，すべり台，木製遊具などの固定遊具を使って遊ぶ。
○　水遊び場やビニールプールなどで水鉄砲で水を掛け合ったり，的当てをしたりして遊ぶ。
○　かけっこやリレーごっこなどをする。
○　相撲をしたり，鉄棒や跳び箱で遊ぶ。
○　友だちや保育者と一緒にかくれんぼや鬼ごっこをする。
○　長縄跳びで遊んだり，短縄で前跳びをしたりして遊ぶ。
○　転がしドッジボールなどボールを転がしたり投げたりして遊ぶ。

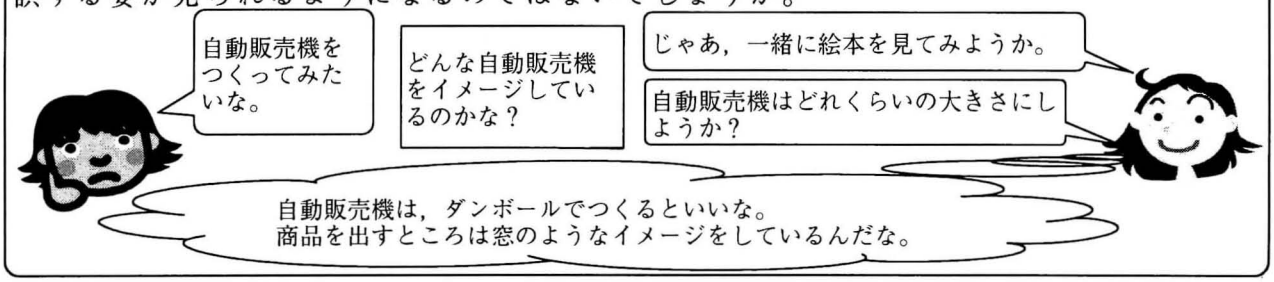
○　自分の身の回りの整理整頓をする。
○　順番やきまりを守ったり，後片付けを自分でしたりする。
○　みんなで使う「もの」を大切に使う。

## ○　年中児が自分らしさを発揮するための保育者の援助の在り方

### 例　子どもたちのイメージが膨らむような言葉掛けや援助を大切にする。

絵本を見た子どもが，「自動販売機をつくってみたい」と保育者に伝えてきました。「自動販売機をつくって，友だちとお店やさんごっこをしてみたい」という願いはあるものの，どんなものをつくればいいのか，どんな風につくったらいいかはっきりとしたイメージは出来上がっていないようです。

子どもたちがイメージを膨らませて遊ぶためには，保育者がイメージの種を蒔いてあげることが大切なようです。絵本や，年長児のつくったものなどを一緒に見ながらどんなものをイメージしているのか探っていきます。一緒につくる中で，子どものイメージも広がっていき，「もっとこうしたい」「こんな風にしてみたらどうかな？」と試行錯誤する姿が見られるようになるのではないでしょうか。

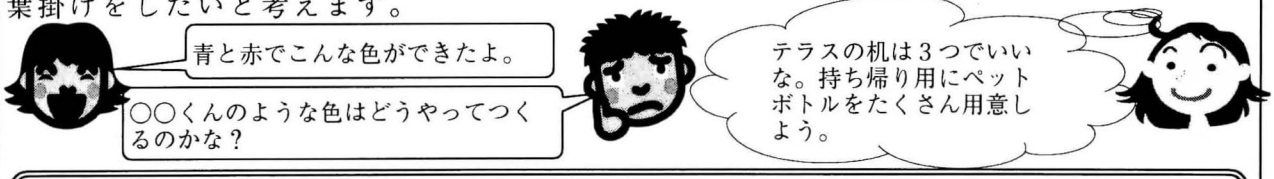



## ○　年中児が自分らしさを発揮するための環境構成の工夫・改善

### 例１「もの」の楽しさを存分に味わえる環境構成に努める。

絵の具を好きな遊びで使い始めた５月。絵を描いた筆を洗った時にできる色水の美しさ，不思議さに気付き毎日のように遊んでいる子どもたち。「青と赤を混ぜるとこんな色になったよ」「さっきの青と違う青ができた！」「○○くんがつくった抹茶みたいな色をぼくもつくってみたい」など，遊んでいる中で発見したことを保育者に伝えてきます。つくるたびに変わる色の不思議さ，絵の具という素材の楽しさを存分に味わっているようです。

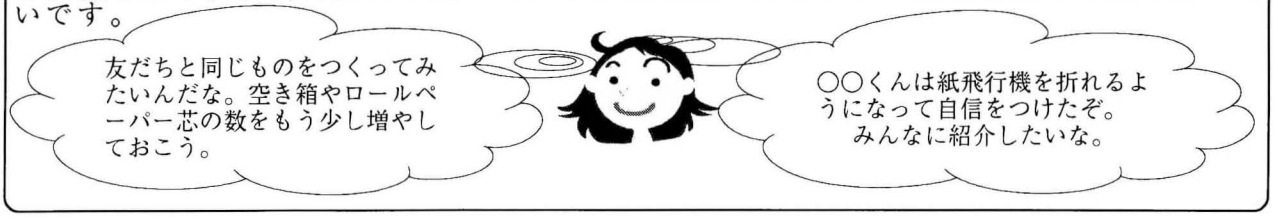
子どもたちは，繰り返し遊ぶ中で，「もの」の楽しさや性質に気付き，もっと知りたい，もっとかかわりたいという願いをもちます。保育者は，子どもたちが繰り返し遊ぶ中でその「もの」のよさを存分に味わえるような環境を整え，その楽しさを味わえる言葉掛けをしたいと考えます。



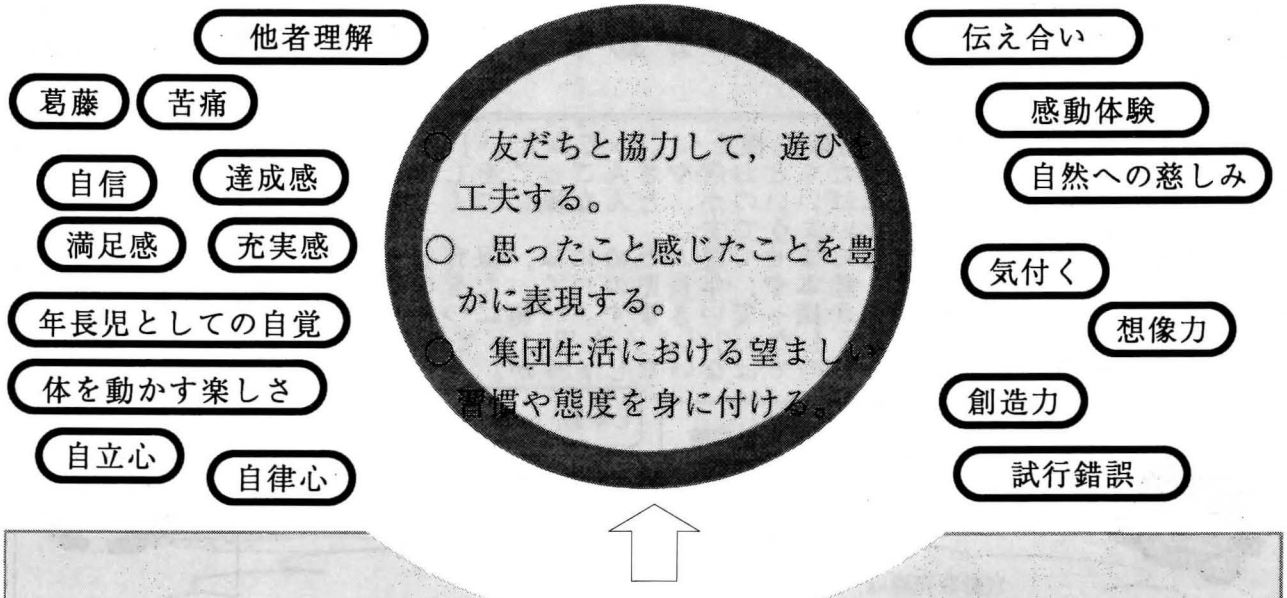

### 例２　友だちのよさや工夫に気付くがことできる環境構成を大切にする。

進級当初は，自分の好きな遊びを存分に楽しんだり，気の合う友だち数人と遊んだりしている年中児も，幼稚園生活に慣れると周りの友だちのやっていることが気になり始めるようです。製作や折り紙，砂場でのままごとなどいろいろな遊びの場面で友だちのつくっているものややっていることに目が向き始め，「どうやっているのだろう」「私もあんな風にやってみたいな」など友だちのよさや工夫に気付く姿が見られます。

保育者として，一緒に遊びながら「これすごいね。どうやったの？」「○○くんがつくったのかっこいいね」「○○ちゃんが折り紙上手だから教えてもらうといいよ」などの言葉を掛け，使うものの数を十分に用意したり，あえて貸し借りをするように量や数を調整したり，隣同士並んで遊べるように机を並べたりなどの環境構成の工夫に努めたいです。



○　「もの」とのかかわりの中で見られた年長児の姿




〔もの〕

○　様々な「もの」と出合う。
○　様々な「もの」の使い方を知る。
○　身近にある素材を使って，自分のイメージに合ったものをつくる。
○　自分の興味のある遊びにじっくり取り組む。
○　つくったものを使って遊ぶ。
○　友だちの刺激を受けながら遊びを楽しみ，友だちとのつながりを深めていく。
○　自分なりに工夫したり，友だちと刺激し合ったりしながらイメージしたものをつくる。

○　砂遊びや泥遊びなど友だちとのかかわりを楽しみながら遊ぶ。
○　友だちと一緒にダイナミックに砂場遊びを楽しむ。

○　音楽に合わせて体を動かしたり，踊ったりする中で自分のイメージしたものを表現する。
○　必要な楽器を選び，自分たちで役割を分担しながら合奏ごっこを楽しむ。

○　水遊びに必要なものを自分たちで準備しながらいろいろな遊び方を試す。
○　戸外で体を十分に動かしながら自分たちなりのルールをつくり上げて遊ぶ楽しさを味わう。
○　ルールのある遊びを友だちと一緒に楽しむ。
○　自分なりのめあて（目標）をもって遊ぶ。

○　身の回りの整理整頓を進んでする。
○　順番やきまりを守ったり，後片付けを友だちと協力したりする。
○　みんなで使う「もの」を大切に使う。
○　当番活動について知り，楽しみながら取り組む。

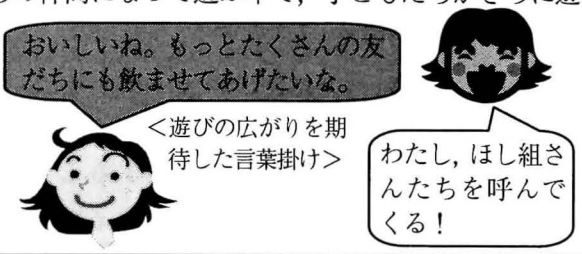
## ○　年長児が自分らしさを発揮するための保育者の援助の在り方

### 例　遊びが充実している子どもたちとかかわるときの言葉掛けを工夫する。

年長児になると，自分の遊びはもちろん，友だちとの遊びもこれまでの経験を生かしてどんどん充実してきます。子どもたちは，自分たちのアイデアで遊びを展開する中で，満足感，充実感を味わうことになるでしょう。その姿を見取り，保育者としてどのような立場で子どもたちとかかわっていったらよいかを見極めることが必要になってきます。

保育者の立場として「見守る」「賞賛するような言葉掛けをする」「一緒に仲間になって遊ぶ」などが考えられます。どの立場でいるかを見極めるとき，子どもたちの遊びがさらに広がっていくことを期待して援助（言葉掛け）することが大切でしょう。主体的に遊ぶ子どもたちの仲間になって遊ぶ中で，子どもたちがさらに遊びが充実するような言葉掛けを探っていきたいものです。

<遊びのイメージを言葉で表し，友だちと共有するための言葉掛け>

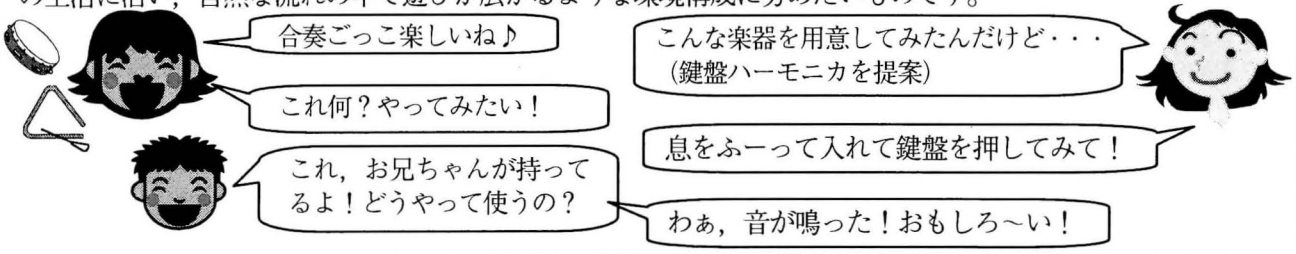



<遊びの広がりを期待した言葉掛け>

## ○　年長児が自分らしさを発揮するための環境構成の工夫・改善

### 例１　遊びが広がっていくような「もの」を探る。

子どもたちは，様々な「もの」と出合い，「もの」との様々なかかわり方を経験して，そのものの特性を生かし工夫して遊ぶようになります。これまでの経験をもとに存分に遊びに浸る年長児にとって，これまでかかわってきた「もの」はもちろん，新しくかかわる「もの」への興味や関心も高いです。保育者として，遊びがさらに広がっていくために必要な「もの」を探ることが大切だと考えます。そのためにも，子どもたちが遊びの中で何を楽しみ，充実感を味わっているのかを見取ることが必要でしょう。遊びが広がっていくためには，これまでの遊びの流れを大切にし，保育者が展開を予想しながら環境を整えていくことが大切です。子どもたちの生活に沿い，自然な流れの中で遊びが広がるような環境構成に努めたいものです。




### 例２　自信をもつことができる機会が生まれるような環境構成を工夫する。

子どもたちは，遊びや友だちとのかかわりの中で「うまくできたぞ！」という経験があると，それが自信となって次への機動力となり，意欲的に物事に取り組んでいく姿が見られます。子どもたちにとって自信をもつことは，とても重要なことであると考えます。自信をもつことができる機会が生まれるような環境づくりをするとき，ちょっとがんばればできそうなこと（心地よい負荷）を意識してみてはどうでしょう。

例えば，進んで跳び箱遊びを楽しむ子どもたちがいる中で，興味はあるもののなかなか跳び箱に積極的になれない子どもが見られたとき，気軽にいつでも挑戦できるように保育室の近くに跳び箱を移動してみました。いつでも身近に跳び箱があることで多くの子が挑戦し，やってみたいけど怖いなと葛藤していた子どもたちも一緒に挑戦する姿が見られるようになりました。その結果，これまでの葛藤していた姿が自信をもつ姿へと変容し，ほかの活動へも意欲的な姿が多く見られるようになりました。